

# ご近所のお医者さん

□  
652  
□

竹中医院長 竹中裕昭さん 一大阪市浪速区

## 医師を志すみなさんへ

大学の医学部を目指す受験生のみならず、目指す医師像と目の前の勉強内容がかけ離れていると感じることはないですか？ 今日では受験勉強が医学にどのようなつながるのかを考えてみましょう。

この3年、新型コロナウイルス感染症が猛威を

振るい、その中で人類はワクチン

を作り、治療法を開発し、その成果を共有してきました。その結果のほとんどは英語で書かれており、英語ができるということは非常に有利です。

## 広い知識 受験に必要

みなさんの中には今後、海外で活躍する人も出てくることでしょう。高地球や砂漠、熱帯のジャングルに行くかもしれせん。その土地の気候や生息する生物などにより生じる地域特有の病気があるので、地理や生物の知識が要求されます。

もし患者さんが不治の病に侵され、西洋医学だけでは解決できない場合、東洋医学の知識が欠かせませんが、漢方薬の原典を探る上では古文・漢文、さらに日本史・世界史の知識も外せません。そしてその患者さんの余命を知るには、多変量解析という方法を用いて方程式をつくりませんが、そこには数学の知識が必要となります。

このように一見関係のない勉強も医学に関

日常診療においても、問診から正確に診断するには高いコミュニケーション力が不可欠で、ここに現代文の力が求められます。きれいなレントゲン写真を撮りたい時は、電流と電圧をどう調整すればよいのかという物理の知識が必要となり、治療薬の化学式においてベンゼン環に一つ物質がくっつくか否かで薬の副作用の有無が決まるとい

係するものなのです。これから医学部に入学し、多くのことを経験しながら進路の選択をする時、受験時に幅広くしっかりと学んでおく程、将来の選択肢が広がります。医学部への道は遠く狭く求められることも高度ですが、来春には志望校に進学できるよう、次代を担う未来の後輩たちにエールを送ります。

（府医師会医療問題研究委員会委員）

